

### 外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2390700280
事業所名	グループホームソラスト白金

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。管理者の交代やコロナ禍で地域行事の自粛により、今まで参加していた町内会の役員会や地区の祭礼、敬老会、保育園の行事や中学生の福祉体験、ボランティアの受け入れ、防災訓練などは踏みとどまっている。管理者はコロナの収束状況を確認しながら、今までの交流の再開に向け対応していく予定としている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 新型コロナウイルスの影響により職員参加を得て、6回書面開催としている。例年では、入居者、家族、民生委員、いきいき支援センター職員の参加を得て実施している。入居者の活動や運営状況、事故報告した後、出席者との情報の交換をしている。意見や提案等は職員会議などで協議し運営に活かしている。議事録は玄関にファイルしているが、面会規制等で見られる機会が得られていない。いきいき支援センターには郵送している。議事録のファイル化のみならず、家族や地域の委員に配布や送付をして、理解が深まることを期待したい。	評価 ×
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務、事故報告やサービスの変更、取り組みなどを伝えたり、メールや電話、文書などを利用し情報交換をしながら協力関係を築いている。いきいき支援センターには営業を兼ねて出掛け、事業所の空き状況や入居相談など積極的に伝えながら交流している。市主催の研修会についてはコロナ禍により中止となっている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からはコロナ禍により、運営推進会議は書面開催で参加は自粛している。面会は緩和され感染予防対策をして対面で実施している他に、テレビ電話やズームでも対応している。また、着替えを持参された折や電話などを利用して意見や要望を聞きケアや業務改善に役立っている。入居者の日常の様子や行事の写真などが入った「白金通信」を発行して家族に安心を届けている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価 ○
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		×

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R元年度
総合評価	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
実施年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
総合評価	○	×									

【備考欄】

運営推進会議は新型コロナウイルスの影響により書面での開催としている。会議録は玄関にファイルして置き、いきいき支援センターには郵送しているが、地域の委員や家族には配布をしていない。管理者の異動に伴い地域との関係性はこれからの課題とされる中、会議録の配布を通して情報提供をしつつ、家族や地域との情報のパイプが途切れないよう努めていくことが求められる。面会や訪問は緩和された面もあるが、運営推進会議、家族会などは自粛状態となっているため、ライン連絡やズーム、電話など家族が対応できる方法で意見や要望を聞きケアや業務改善に役立っている。食事は季節感のある食事や入居者の希望を取り入れたり、今まで慣れ親しんできた家庭料理を基本に毎食手作りして提供し、入居者もマスクを付け食事やおやつ作りをして食べる楽しみに繋げている。平常時は気軽に出席できる環境にあるが、外出の自粛が続いている中でコロナの情報を確認し、人出の少ない時期や出掛けるタイミングを見計らい、少人数でマスクをするなど感染予防対策を徹底して、初詣やドライブで車窓から四季折々の花や景色を眺めるなどをして気分転換を図るようにしている。